

豊中市立第十三中学校
第四十二回卒業式 式辞

四十二期生の皆さん、皆さんの三年間の最後の年は、五月下旬までの休校措置で幕が開き、その後も 1 年中新型コロナウイルスへの対応に明け暮れた年でした。昼食時には友だちと喋ることもできず、体育大会は短縮プログラムでの実施となり、修学旅行は二日間の日帰り旅行となりました。

しかし、そのような環境の中、皆さんはいろいろな事を学び、自分の力を伸ばそうと努力されてきました。クラブの試合が開かれるかどうかわからない中で努力を続け、やっと開かれた大会で素晴らしい成績を収めた人がたくさんありました。

また、絵画、書道、作文、プレゼンテーション、意見発表会などの文化的な活動においても高く評価された人も多かったです。もし、たとえ大会やコンクールで良い評価を得られなかったとしても、皆さんの一生懸命に頑張る姿は私の目に焼き付いていますし、その経験は自分自身の心の中に思い出として、あるいは達成感や自信として、これからの人生の糧となることと思います。

さて、間もなく皆さんは九年間の義務教育を終え、今後は自分の力で道を切り拓いてゆくこととなります。皆さんの中には、明確なイメージを持って四月からの生活に臨もうとされている人がとても多い、という印象を持ちました。四十二期生は取り組んできたスポーツや演奏技術を極めるために中学校からの推薦を受け進学する人が例年以上に多いです。

また皆さんが描いた将来の夢。農業に取り組みたい、理学療法士、教師、司法書士、放射線技師、ゲームクリエイター、医師、研究者、漁業…。とても具体的な夢を持っている人が多い、と感じています。

やりたいことが見つかって、その夢を追いかける人は、いわばスペシャリストへの道を目指しているわけです。中学校卒業の段階でそれが見つまっている人は、とても幸せだと思います。

しかし、今それが見つからない人も心配する必要はありません。スペシャリストに対してジェネラリストという言葉があります。それは、幅広い知識や経験を持ち、複数のスペシャリストの仕事や意見の調整をし、全体を客観的に判断して物事を進める人です。

例えば今回の新型コロナウイルスの対応にしても、医療の専門家と経済の専門家の意見を調整しながら何とか最適な解決策を見出そうとしています。

スペシャリスト的な生き方、ジェネラリスト的な生き方、または、その中間に行く生き方。

皆さんは、これからの数年間で自分の生き方を模索していかれると思います。

中学校では一歩を踏み出す勇気がなかなか出なかった人も決して遅くありません。人生百年時代と言われます。皆さんの本当の人生はいよいよこれから始まるのです。

自分を高めるためには、失敗を恐れず、様々なことにチャレンジする姿勢を持ち続けてください。

そして、自分自身の夢を見つけ、それをさらに進化させて「自分はこんな風に世の中に貢献していこう」という志を立てて欲しいと思います。

志とは何でしょうか。ある実業家の方は次のような事を言っておられます。

夢と志は違います。

夢は漠然とした個人の願望であり、志は個々人の願望を超えて多くの人々の夢を叶えようとする気概です。

夢はこころよい願望だが、志は厳しい未来への挑戦です。

皆さん一人ひとりが立てる志が集まって、次の時代を、新しい世の中を作ってゆくのです。私はとても期待しています。

最後になりますが、ご来賓の皆さま、そして保護者の皆さま、三年間私どもの教育活動にご理解、ご協力を賜りまして誠に有難うございました。

また、本日はお忙しい中、子どもたちの門出を見守ってくださり、まことに有難うございます。改めてお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、友と創った数多くの思い出が、貴重な財産となることと思います。

中学校三年間のさまざまな経験から培った力を礎にして、大きくはばたいてください。

以上、卒業生の前途を祝い、私からの式辞といたします。

ご卒業おめでとうございます。

令和三年(二〇二一年) 三月十六日

豊中市立第十三中学校 校長 成瀬 彰